

平成15年9月18日(木)

○	開 会	10時01分
○	水道局	
○	職員紹介	
○	決算説明	10時04分
○	質 問	10時25分

問 もともと県水は高かった。原水及び浄水費に比べて受水費がかなり高いと思うがどうか。

答 姫路市の自己水源だけで需要が賄えないために申し込んでいる。非常に大きな出費であるが、いかんともしがたい。

問 工業用水として約44万トンあるが、現在は契約水量からすると半分以下しか使っていない。使っていない分は市民に返してもらえれば高い県水を買わないで済むと思うがどうか。

答 工業用水が減っているというのは聞いている。これは河川管理者と企業との契約であるので、水道局が企業と話をすることはできない。

問 今の工業用水の実態はわかるか。

答 わからない。

要 望 調べてほしい。

問 工場の水利権を返してもらったら自己水源がふえて県水を使わなくてすむのではないか。

答 県水を受水していることに関してはいろいろ経緯がある。姫路の水源については1日最大給水量が20万トン強という時期があった。自己水源との差について、姫路市だけでなく県下28市町が県に対して水源確保を願い出たという経緯がある。県はその施設もほぼ作り終えている。今更いらないということとはできない。

工業用水が余っているから水道にまわすということについてはよくわかるが、今までの経緯を踏まえて県水を受水することになる。

問 経営審議会か何かを行ったと聞いたが、どんなメンバーで、どんなことを話し合ったのか。

答 経営審議会ではないが、内部で主に係長クラスで経営改善の検討委員会をやっている。平成15年の1月から立ち上げ、現在の状況と総給水量が減ってきている中で、どのような形で経営健全化を図っていくかという趣旨である。

問 どのような方向で話し合われたのか。

答 今までもいろいろやってきたが、更にどこまで踏み込んで経営改善をできるかということである。ひとつの方向性として例えば一部の業務を民間に委託したらどうかという意見も出ている。局としていろいろ考えていきたい。

問 県水の16年度以降の契約はどうなっているのか。

答 平成12年から15年までは増加していたが、平成16年以降はほぼ横ばいでいくことにしている。

問 企業債の借り換えはできないのか。

答 許可されない。

問 漏水はどれくらいあるのか。

答 約360万トンである。

問 不況のため生活が苦しく、水道料金を支払えない人への対応はどうしているのか。

答 滞納者には停水措置をとるが、事情がある場合は担当者が話をしてなるべく一部納付で対応する。当然支払いができるのに滞納しているような悪質な場合は停水する。

問 現在の状況では収入増加は難しい。人員の配置や業務委託により経費を削減することについてどのように考えているのか。

答 平成10年から右肩下がりであるので合理化や節約、委託できることは委託するな
どいろいろな意見を聞いて検討したい。

問 漏水調査の業者は姫路にはないのか。

答 姫路の業者も入札に参加している。

問 契約金額がどれくらいの時に前払い金を支払うのか。

答 後期90日以上、1件500万円以上のものについて申請があれば支払う。

問 高い県水を買いつけている状態が続いている。随分前から指摘している問題でもある
ので、水道局がどの程度県の関係者と協議し、交渉してきたか示してほしいがどう
か。

答 今の水道事業管理者になってからは交渉していない。

問 飾磨井堰に年間661万円支払っている理由を聞かせてほしいがどうか。

答 保城浄水場の管理、使用料である。市川本流から船場川への井堰を使わせてもらっ
ており、水位の上げ下げや管理の面での操作をしてもらっている。

問 水道局だけの技能労務職採用があるが、それにどれだけの意義と意味があるのか。
専門技術を持っている人を採用しているというのは疑わしいと思うがどうか。

答 採用は人事当局でやってもらっている。水道局専属の技能労務職は、水道局に入っ
てきてから技能を身につけるので、その養成にかなり長い期間を要するため水道局内
だけを転々とする。

問 水道局の職員に関する事項で技術職となっているところは、行政職と技能労務職が
混在しているが、給料体系が違うのであるからもっと整理してはどうか。

答 技術職員という表現で一括している。今後表記について検討したい。

問 水道局の職員で給料を差し押さえされた人がいるということだがどうか。

答 今はないが、昨年は一入あった。

問 職員に葬式ができた場合に香料、しきみ、弔電を水道管理者の交際費とする。それ
でほしい1万円であると思う。その際、市長交際費からはしないのか。もしあれば
二重になっていることになる。そのあたりを整理しているのかどうか。

答 今現在、水道事業管理者としてはやっていない。市長の側のことは即答できないの
で確認する。

問 1カ月に51円しか使っていない電話があるが、そのような電話は不要ではないの
か。

答 調べて報告する。

問 水道局の電話代では、携帯電話とPHSではかなり経費が違ってくると思うがどう
か。それは水道局が持たせているものなのか。

答 局で持たせているものである。料金については今後勉強したい。

問 昨年異臭の問題があったが、薬品の経費はどうなっているのか。

答 異臭の際には活性炭の使用が多かった。年間で約3,000万円ぐらい節約できる
のではないかと考えている。

問 活性炭の種類はどのようなものか。

答 粉末活性炭である。

問 緊急にやらなければならないものは、懇話会などの意見を待つのではなく手をつけ
ていくべきだと思うがどうか。

答 今考えているのは、ある一つの課を3分の1ぐらいに縮小していこうということが
ある。

問 技能労務職はやはり特別に水道局だけの採用というのはやめたほうがいい。さらに
技能労務職の人数を減らして委託にするほうが経費の削減になるのではないか。水道
局だけではなく市全体として考えるべきと思うがどうか。

答 今後内部で検討したい。

問 交際費の中で、平成14年6月11日に姫路の警察へビール券を謝礼として出されている。いまだにこんなことが官から官へなされているということに驚いた。今現在がどうなっているか知らないが、実際にこのようなことがされている。名目は道路使用許可に対する謝礼ということでビール券30枚である。

答 警察三署へのビール券については昨年6月までやっていた。12月からやっていない。

要 望 金額の問題ではなく姿勢の問題であるのでこれからしっかり見直してもらいたい。
問 業務委託料について、費用見直しはどのくらいのスパンで行われているのか。
答 毎月見直しをして検討している。

○ 終了
○ 休憩 12時00分
○ 再開 13時01分
○ 交通局
○ 職員紹介
○ 決算説明 13時03分
○ 質問 13時30分

問 平成13年度と平成14年度の吏員の変化を示してほしいがどうか。
答 平成13年度の正規職員は226名。平成14年度は189名。現在は184名である。ガイド職が多く動いている。ガイドの配置換えが22名、退職が3名。

問 平成14年度の路線ごとの営業係数の資料がほしいがどうか。
答 資料を後で持っていく。
問 再任用では週に30時間勤務に就いてもらっているが、その勤務内容はどうなっているのか。

答 平成13年度末に退職したのは、職種別に示すと行政職が1名、運転職が7名、整備職が4名、ガイド職が3名である。運転と整備の11名中8名については再任用をしている。内訳として1名が事務補助、4名が運転、3名が整備である。

問 整備の正規の職員は何人か。
答 8名である。
問 退職勧奨をしているが、実質はゼロなのか。
答 平成14年度においては1名しか応じていないのが現状である。

問 人件費を営業収益で賄えない状態であるが、退職勧奨等含めていろいろな努力の姿が見えないと思うがどうか。

答 いかにして人件費の総額を抑えるかというのが収支改善のためには大切なことである。人件費は減ってきているが、収入がそれ以上に減っているためにどうしても収支改善が難しい。

問 これから収入が大きく増えていくことが想定できない中で、路線廃止などを行う等の努力の跡が見えないと思うがどうか。

答 確かに極端に悪い路線もあるし、大半が赤字路線である。懇話会の中で経営形態のあり方も含めて、路線のことを検討してもらっている途中である。今後、懇話会からの提言も踏まえて路線の見直しもできるだけ早い時期にやっていきたい。

問 懇話会がどうか言うが、今までも検討課題として挙がっていた。しかし平成14年度は何も対策を講じていない。実際、網干方面の路線についても、例えば自治会と話をするなど路線の廃止の努力をしていないのではないか。

答 業績の悪い路線について、直接自治会に出向いて行ったことはない。近いうちに市バス新聞で路線ごとの係数を示して実態を知らせるように作業している。

問 ロープウェイが落雷により止まったことがあったが、その後の対策はどうなっているのか。

答 毎年12月のロープの点検の時、交通局のみで訓練をやっていたが、昨年度は西消防署とも合同で総合訓練を行った。今年も行う予定である。それ以来、雷が近づいてくると状況を見ながらできるだけ早い時期に一時的に運転を停止するように注意している。

要 望 懇話会の結論を受けて抜本的な路線廃止などの方向を早く打ち出して欲しい。

問 現在の経営状況が厳しい中、交通局の姿勢を見ていると事業をやめるしかない、民営化しかないというように感じるがどうか。

答 どの公営事業も厳しい情勢である。全国でも約10か所ぐらいは委託や民営化を考えている。ただバスが不要だと思っているわけでない。ただ公営でやる必要があるのかというのを考えているのである。

問 ティッシュを配るなどのPRをもっとやるべきであると思うがどうか。

答 駅前で行っている。これからもPRに力を注ぎたい。

問 ワンコインバスについて、現在のやり方では市民の需要に合っていないのもう少し利便施設等に近いところまで距離を伸ばしてはどうか。

答 駅から概ね1kmの範囲で実施している。このことで乗客が少しは増えているが収入は減っている。いましばらくPRをしながら集客の方向につなげたい。

問 運転手のマナーが悪いのではないか。

答 苦情をいただくこともある。反省すべきであると思っている。今後も研修などを通じてマナー向上に努めたい。

問 年々乗客数が減っているが、それについては見込みがついているのか。

答 過去からの乗客数はだいたい3%から5%減少している。先の見込みとしても、今後とも3%は減少するのではないかと考えている。

問 減少の原因は何だと考えているのか。

答 乗客減少はひとつだけの理由からではないと思う。マイカーの普及もさることながら、企業の従業員の減少、子供の減少、郊外店舗の増加等、いろいろな要素が絡み合っていると思う。

問 ワンコインバスにより利用者はふえているということだが、安くすればバスに乗ることがわかったのではないか。

答 市営バスの中で一番経営状態がいい市役所線については言えることであるが、それぞれの路線を見ると、安いからといって必ずしも乗客が増えるわけではないと思う。

問 路線ごとではわからないのか。

答 現在の調べ方ではわからないが、今後調査の方法を検討したい。

問 平成10年に交通事業経営対策検討懇話会で見直した路線はどれか。また、廃止した路線があるのか。

答 新設は英賀保南、大津南である。また日出車庫と東蒲田について延長している。廃止路線はない。

問 新路線をつくる際に将来赤字になると警告したが、結局実行して指折りの赤字路線になっている。懇話会で提言してもらって赤字をふやしただけである。赤字の路線でも路線を整理統合して循環バスにしたら効率的である。大幅な赤字路線であれば見直せばいいのに一旦決めたらそのままの状態であるのはどういうことか。なんでも懇話会の提言どおりにするのではなく自分達で考えていかなければならないと思う。

答 急ぐべき課題である。懇話会の意見は尊重するが、そのとおりにするというのではない。

問 その懇話会で観光バスを大幅に減らすことを提言されたが、観光バスが減って困っているのではないか。

答 バスが減少して支障が出るのは事実である。

要 望 観光バス事業は十分成り立つと思う。努力して欲しい。

問 県内でも黒字の企業がある。例えば明石と比べてどう思うか。

答 地域性があるので効率が違うと思う。

問 以前に神姫バスと住み分けをしているが、その協定を見直しを早くするべきとの話をしたことがあるがどうなっているのか。

答 高架事業ができたときにそのような話をするという答弁をしている。仮に民間に委託したり民営化したら神姫バスとの覚書も実質意味はなくなる。

問 市バスはなくしてしまうのか。話を聞くとそのように受け取れる。

答 今のままでは厳しいので対策を講じるという意味である。民営化ありきのつもりはまったくない。

問 もっと乗客がふえる努力をするべきだと思うがどうか。

答 必要な時に必要な路線を選択していきたい。ただ行革の考え方として民営というのは考えられる。

要 望 根本的には民間より賃金が高すぎるという問題がある。例えば民間委託する場合、一部民営化、路線廃止などいろいろな案を出してそれぞれにシミュレーションして市民に情報を提供し、議論をしてほしい。

○ 終 了

14時40分

○ 散 会

14時44分